

MEIJI MURA

明治村だより Vol.59
2010 Spring



- 開村45周年の明治村 2
- 明治村グラフィティ 平成17年~22年 4
- 旧東宮御所写真帖 6
- お知らせ 7
- 明治時代の金庫 8
- 春の催しもの 10
- A La Meiji-mura 11

平成 22 年 3 月 12 日発行
「明治村だより」第 59 号 (平成 22 年 春)
 発行 博物館明治村
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
 電話 (0568) 67-0314
<http://www.meijimura.com>
 製作 大日本印刷株式会社

●表紙写真
 「東宮御所写真帖」より「朝日之間」と、朝日之間で使用されたサイドボード

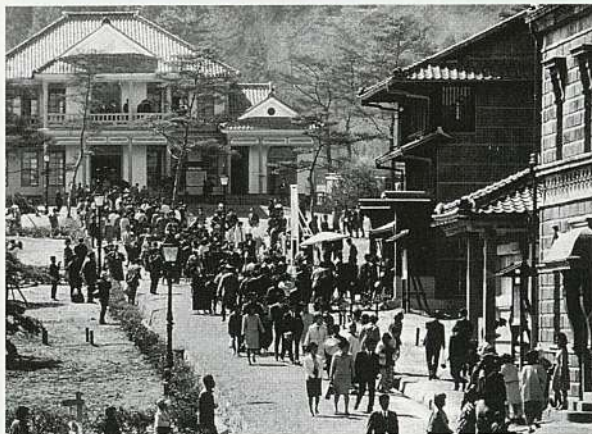
「明治村だより」第 60 号発行のお知らせ
 発行時期 平成 22 年 7 月中旬 (予定)
 申込方法 「明治村だより」第 60 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

開村45周年の明治村

明治村は破壊に直面した近代建築を移築・復原する建築博物館ですが、テーマパークのように入場者に強かに働きかける想像上の展示物の集積ではありません。明治村は水族館や美術館、モンキーパークやリトルワールドなどの企画・管理・運営を担当している名鉄系の事業会社株式会社名鉄インプレスに運営を委託されています。国や地方公共団体に所属する公立博物館では、観客の動員や接待を主要な業務とする職員や飲食物の製造・販売を業務とする職員は配置されていませんが、この事業会社ではそれが業務の一部になっており、その収益が会社経営の基盤になっています。公立の博物館では近年、管理・運営上大きな変化を求められていますが、明治村はその影響をほとんど受けていません。

四十五周年を迎えれば五十周年も間近です。開村当時の精神を常に想起しながら現在の体制を維持・強化し、入館者各位が一層満足し、楽しめる博物館になるよう努めたいと思います。

開村当時の明治村



開村当初の賑わい



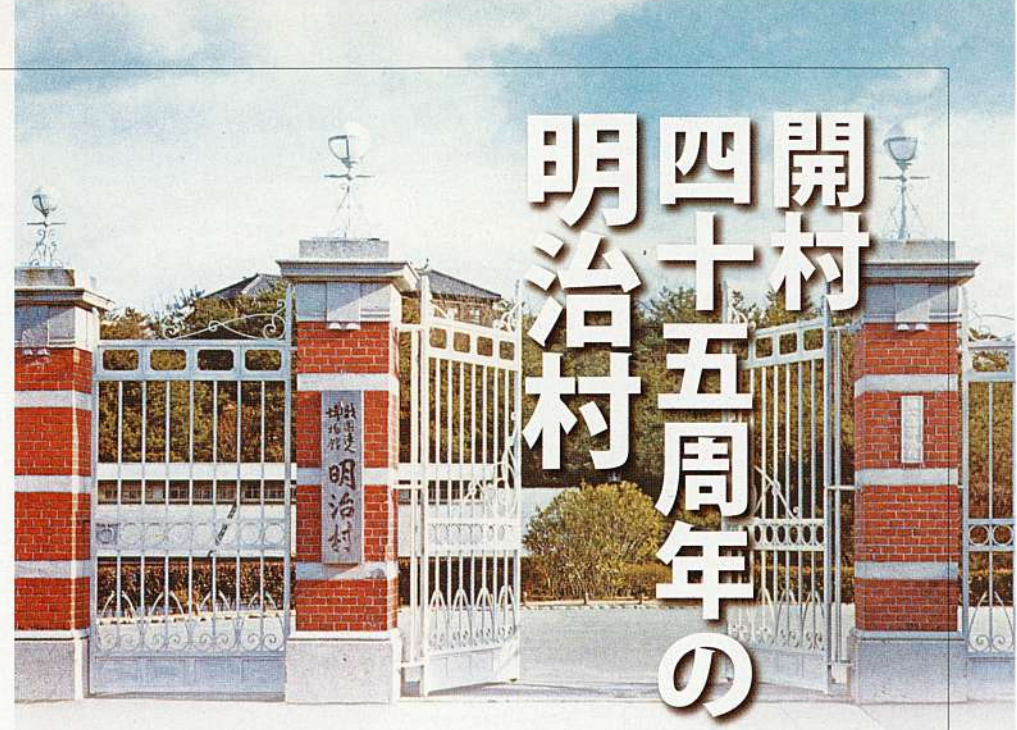
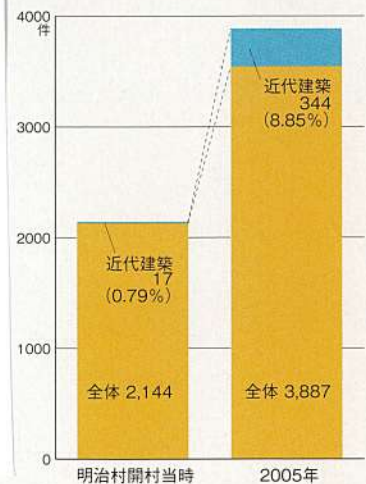
開村時の招待券
記念乗車券



現在の明治村

現在の案内図

重要文化財建造物に占める近代建築の割合の推移



平成二十二(二〇一〇)年三月、明治村は開村四十五周年を迎えました。昭和四十(一九六五)年春から平成三(一九九一)年にバブル経済が破綻するまでの約三十年間、明治村の平均年間入場者は百二十万人以上でした。昭和三十年代の都市再開発による破壊から近代建築を守るといふ明治村の構想が、いかに広く国民に支持されたかを雄弁に物語っています。

東京工業大学教授で建築家の谷口吉郎博士による、移築して近代建築を救済するという構想に、名古屋鉄道株式会社の土川元夫副社長が賛同し、会社

の事業として、その具体化を模索し始めたのは、昭和三十六(一九六一)年頃でした。当時、重要文化財として国が保護していた近代建築は僅か十一棟です。現行の文化財保護法が施行された昭和二十五(一九五〇)年、重要文化財に指定された近代建築は僅か二棟です。重要文化財建造物の総数は一、六一六棟ですから、近代建築はその〇・二パーセント強にすぎません。昭和三十六(一九六一)年には十一棟に増加しましたが、九棟指定するのに十年以上の時間が経過したわけですね。全国を舞台として始まった都市再開発の奔流を前にして、年間一棟にも及ばない救済速度では、近代建築は歴史の舞台から姿を消してしまいます。

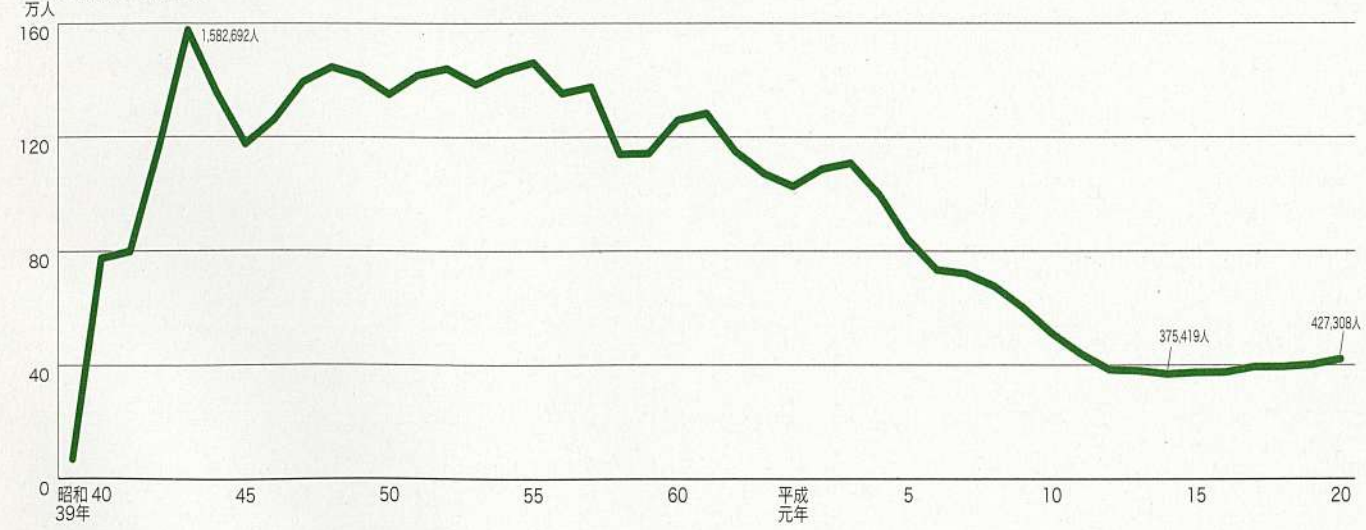
明治村の構想が具体化しつつあった昭和三十年代末期に旧東宮御所(現 迎賓館赤坂離宮)を取り壊して、大規模なホテルを建設するという当時の最も有力な政治家による構想が世に流れたのは、近代建築の価値がほとんど認められていなかった状況をよく現しています。この無謀な提案は文化庁を中心とする反対運動により阻止され、国立国会図書館、最高裁判所庁舎などに利用されていた旧東宮御所は破壊を免れ、その後迎賓館として再生し、昨年度国宝(重文)に指定されたことは、承知のとおりです。

明治村の成功をうけて、各地で近代建築の現地保存や移築保存が活発になり、重要文化財に指定された近代の建造物は現在では六〇〇棟以上にのぼり、重文指定建造物四、三〇〇棟の十四パーセントに増加しました。



博物館明治村
館長 飯田喜四郎

入場者数の推移



- 平成17年(2005)
 - 3月●愛知万博開催記念「百年前*体験博」開催
 - 明治天皇 昭憲皇太后御料車内部特別公開
 - 百年前立体写真館開設
 - 6月●国際建築トリエンナーレ2005 in 明治村「伝える日本の建築文化」

- 平成18年(2006)
 - 3月●菅島燈台附属官舎にて神島灯台レンズおよび回転機械動態展示および明治期灯台等に関する歴史展示開設
 - 金沢監獄中央看守所・監房 中央看守所内書信室復元・監房内の生活再現開設
 - 宮津裁判所法廷 展示人形補修および被告・看守人開設
 - 春催事「明治探険隊」開催
 - 企画展「明治を探る―明治村お宝探訪―」「明治の探険家」開催
 - 明治探険隊オープンングイベント 小沢村長講演会「少年探険隊」開催
 - シンポジウム「市民に親しまれる野外博物館をめざして」(平成17年度文化庁芸術拠点形成事業)開催
 - 9月●企画展「祭りのカタチ」開催

- 平成19年(2007)
 - 3月●高田小熊写真館復原整備公開
 - 明治村トリエンナーレ'07「第2回芸能芸術祭」開催
 - 芸能・芸術祭オープンングイベント 小沢昭一村長講演会「小沢昭一の芸術のこころ」開催
 - 春催事「明治探険隊Ⅱ―時間の迷宮―」開催
 - 企画展「麗らかなる錦絵」開催
 - 春のハイカラ午餐開催(秋にも開催)
 - 明治村運行40周年記念「京都市電」車掌体験
 - 7月●機械遺産に「あのかち式渦巻きポンプ」・「足踏旋盤(東工大寄託)」が認定される

- 8月●日本機械学会創立一〇〇周年記念「メカ・ウィーク」関連イベント「知ろう!体験しよう!明治の大発明「ガラ紡」」開催
- 9月●芝川又右衛門邸 移築公開
- 芝川又右衛門邸移築竣工特別展「あこがれの郊外住宅」開催
- 芝川邸公開記念シンポジウム「芝川又右衛門邸をめぐる」開催
- 10月●明治村トリエンナーレ'07特別興行 東京やなぎ句会「明治村大句会」開催
- 明治村みらいプロジェクト(平成19年度文化庁芸術拠点形成事業)「明治村錦絵れきし探偵団」職場体験プログラム「はばたけ!ジュニア博物館人」開催

- 平成20年(2008)
 - 3月●春催事「明治探険隊Ⅲ―秘密の聖地―」開催
 - 春のハイカラ午餐開催
 - 6月●特別展「世界へはばたく―日系移民のあゆみ―」開催
 - 8月●夏休み子ども向け企画 わくわく・わくわく ショップ 版画多色摺り体験「君も錦絵を摺ってみよう!」
 - 9月●村の秋祭り2008「明治グルメ博」カレー・フェア開催
 - 11月●呉服座特別公演「三遊亭好楽・林家たい平二人会」開催
 - 12月●企画展「かたどられるウシ―うし年郷土玩具展―」開催

- 平成21年(2009)
 - 3月●「明治探険隊Ⅳ―受け継がれし黄金郷―」開催
 - 建築の巨匠フランク・ロイド・ライト没後50年特別公開「帝国ホテル中央玄関をめぐる」(秋にも開催)
 - 小沢村長講演会「長講一席小沢昭一的こころ」開催
 - 11月●明治村開村四十五周年記念特別展「赤坂離宮を彩った華麗なる宮廷家具」開催
 - 12月●蒸気自動車、JR東海へ返還

開村45周年記念企画

明治村文化講座

「明治塾」開講

塾生募集中

明治村をより理解していただくために、建築のみならず明治時代に関する様々な分野について、各分野で活躍中の研究者に講演いただきます。

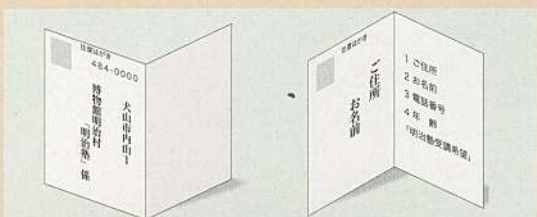
応募資格/明治時代の建築や文化等に興味のある方。原則5回すべて受講できる方。

定員/50名(応募多数の場合は抽選)

参加費/10,000円(5回分、入材料は別途)

申込方法/受講ご希望の方は往復はがきで、下図のようにご住所・お名前・電話番号・年齢・「明治塾受講希望」とご記入の上、下記宛お申ください。(平成22年3月31日消印有効)

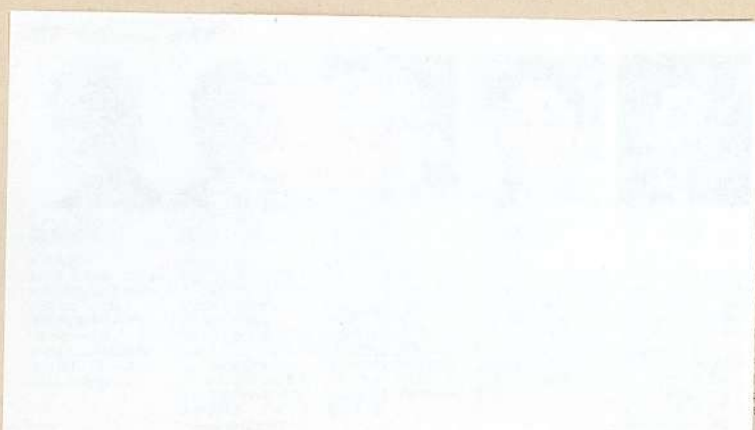
送付先/〒484-0000 犬山市内山1 博物館明治村「明治塾」係



スケジュール・講師(時間はいずれも13時から)

- 第1回 5月 8日(土) 熊倉 功夫(林原美術館館長)
- 第2回 6月26日(土) 御厨 貴(東京大学先端科学技術研究センター教授)
- 第3回 7月10日(土) 藤森 照信(東京大学生産技術研究所教授)
- 第4回 9月11日(土) 山梨絵美子(東京文化財研究所企画情報部近・現代視覚芸術研究室長)
- 第5回 10月2日(土) 原 武史(明治学院大学国際学部教授、同付属研究所長)

※所属・役職等は平成22年2月28日現在



館長就任記念シンポジウム

「博物館明治村の45年、歴史的建築の45年」

4月1日より鈴木博之氏が新たに館長に就任いたします。博物館明治村ではこれを記念して下記シンポジウムを開催いたします。皆様ふるってご参加ください。

期日/平成22年4月24日(土) ※申し込み・参加費は不要
会場/聖ザビエル天主堂
時間/13時30分~16時30分(開場13時)
テーマ/博物館明治村の45年、歴史的建築の45年

構成

1. 基調講演 鈴木博之
2. パネルディスカッション
 - ① 鈴木 博之
 - ② 森まゆみ(ノンフィクション作家)
 - ③ 松山 巖(小説家・評論家)
 - ④ 木下 直之(東京大学教授)

講師プロフィール(敬称略)



鈴木博之
東京都出身。
青山学院大学教授、東京大学名誉教授、東京大学工学部講師、助教授を経て、教授。ハーバード大学客員教授。東京大学名誉教授。
著書『ジュネーブの文化』『夢のすむ家』『三井本館』『東京の地盤』『建築家たちのヴィクトリア朝』

森まゆみ
東京都出身。
出版社勤務の後、フリーとなり、地域雑誌『谷中・明津・千駄木』を創刊、発行。芸術選奨文部大臣賞・日本建築学会文化賞・サントリー地域文化賞。
著書『東京遺蹟』『隅の坂』『明治快女伝-わたしはわたし』『大正美人伝-林きむ子の生涯』

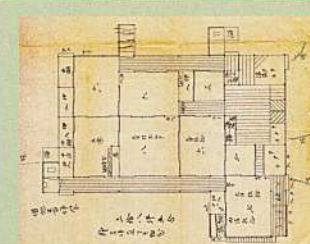
松山 巖
東京都出身。
建築事務所を経た後、執筆に従事。サントリー学芸賞・伊藤整文学賞・読売文学賞。
著書『うわさの遠近法』『乱歩と東京』『世紀末の一年1900年ジャパン』

木下直之
静岡県出身。
兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館助教授を経て2004年より現職。サントリー学芸賞・芸術選奨文部大臣賞。
著書『美術という見聞物-油絵茶屋の時代』『わたしの城下町』

※催しは予告なく変更されることがあります。悪しからずご了承ください。

森鷗外・夏目漱石住宅
の書齋について

明治村一丁目に展示されている「森鷗外・夏目漱石住宅」の書齋は古写真などから七畳であったことがわかっていますが、解体時に写真右奥に写っている押入れ上部や手前の壁面・天井部の仕様等が判明しなかったため、明治村では押入れ部分の復元をせず、八畳としています。



森鷗外・夏目漱石住宅寄贈者の斎藤家に遺っていた古図



現状の平面図

旧東宮御所写真帖

明治村開村45周年記念特別展

～赤坂離宮を彩った華麗なる宮廷家具～

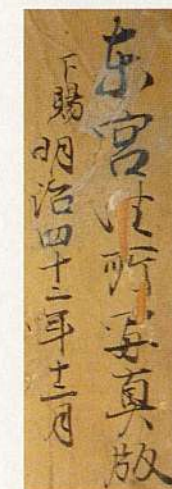


写真1 旧東宮御所写真帖

写真2 桐箱の底面に記された旧蔵者の覚書



写真3 孔雀の間 展示風景

旧東宮御所写真帖の写真から家具が使用された場所を特定することができるところから、使用場所不明の家具の同定作業に大きな拍車がかかるのでは、と期待しています。

今回の展覧会を開催するに当たって、大きなきっかけとなったのは、岐阜県在住の方から旧東宮御所創建時の写真帖の寄贈を受けたことです。寄贈してくださった方は、宮内省の技師の子孫の方で、写真帖(写真1)は竣工を記念して工事関係者に下賜されたもので、写真2、誰もが手にすることができないもので、なかつたと推測されます。写真帖とはいっても、一五〇枚を二つに分け、鳳凰と菊の御紋が型押しされた革製の帙に、さらに桐箱に収められているという、丁寧な装幀がなされていることから推測できます。

写真は四六八ミリ×五五五ミリの用紙に印刷され、用紙の隅には通し番号、写真の下部には室名と撮影した方向・場所などが記載されています。撮影は後に帝室技芸員となる「小川一真」です。

小川一真(一八六〇～一九二九)は現在の埼玉県行田市生まれ、最初、熊谷で湿板写真の技法を学び、群馬県富岡で写場を開業し

ました。東京の写真師たちと交流の機会を得、乾板の技法を習得しました。その後、単身アメリカへ渡り、乾板の製作方法や撮影技術、コロタイプ製版・印刷法を学びました。

帰国後、明治十八年、東京飯田町に小川写真館を開業、同二十一年には小川写真製版所を設立し、写真技術だけではなく、図版印刷においても高い評価を得ました。

小川は刻々と移り変わる日本国内の様子や日清・日露戦争をカメラに収めるのみならず、出版活動を行うことで、マスメディアとしての役割を果たした先駆者ともいえることができます。

彼の技術力の高さは、今回の展示に使用した写真からも理解できます。写真帳の写真を約二メートル四方に引伸ばし展示(写真3)したところ、小さな写真では解り難かった家具や室内の意匠の詳細を知ることができたからです。

これまで博物館明治村で収蔵している旧東宮御所旧蔵家具の照合作業は、東宮御所家具設計図、皇室会計審査局録東宮御所御造営文書(ともに宮内庁書陵部蔵)などの文書史料や家具の裏面などに付された番号やラベルなどに専ら頼ってきました。今後は



写真4の部分拡大



写真4 花鳥之間天井隅
左隅に図版番号、下部に室名等が記されている。

明治時代の金庫

—川崎銀行本店常設展示リニューアルのご紹介—



写真1 左より、山田金庫店製造、小林金庫商會製造、後藤製造



写真2 東松家住宅内に展示されている鉄張箱（函）



写真3 竹内製火災保険盗難防御金庫価格表
明治24（1891）年発行

入されるようになりました。当初金庫は「鐵張箱」「弗函（匣）」

などと呼ばれていました。石井研堂の「明治事物起原」(「金庫の始」)には、慶応三(一八六七)年に発行された外国製金庫の広告が紹介されています。「高名なる「ミルネル」(製造所名の錢張箱御座候、盗賊並に出火の節極丈夫にて大小色々御座候、御求奉願候。横濱二番 ウオルシホール(傍線筆者)。いずれの国の金庫も定かではありませんが、居留地の外国人によって金庫の輸入販売がなされていた様子が見えます。

この広告が掲載される前年の慶応二年、国産金庫が誕生する契機となる出来事がありました。それは横浜の末広町で発生し、外国人居留地まで被害が広がった大火でした。「明治事物起原」には、横浜の大火の際にフランス製の金庫が被害を受け、これを修理できる者が見つからず困っていたところ、彌兵衛という人物が見事に修理したとあります。この彌兵衛なる人物は、国産金庫製造の元祖とされる神奈川県在住の竹内彌兵衛です。明治二十四(一八九二)年に発行された竹内製金庫価格表(写真3)



写真4

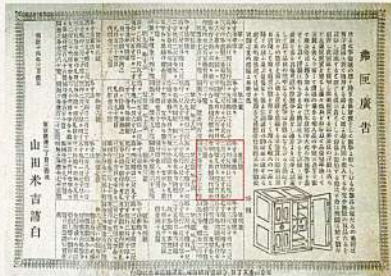


写真5 「弗匣廣告」
明治14（1881）年発行

の中にも、慶応二年に火災に耐える国産金庫の発明を志したと記載されています。横浜の大火の後、外国製金庫に劣らない国産金庫の発明に向けて、試作を重ねていた彌兵衛のもとに好機が訪れます。ウィルマンというアメリカ人から、発明の材料として西洋で発明された「Fire Proof Safe」(耐火金庫)が提供されました。その後、彌兵衛は試作を繰り返すこと数年、「明治事物起原」によれば明治二年、ついに第一号を完成させて国産金庫の販売を開始します。このように国産金庫誕生への道は、大火に罹災した金庫を修理した経験と、西洋の金庫が見本として提供される、というふたつの偶然によって開かれました。

《国産金庫の普及》

前掲の竹内製金庫価格表によると、彌兵衛は国産金庫を発明した後、国内に普及させるべく販売は別の業者に委託して、金庫製造を志す人々に製造方法を伝授することに専念したとあります(※1)。その結果、「今や京濱間金庫製造ヲ以テ業トスルモノ其数少カラズト雖トモ我教授ヲ受ケサルモノハ殆ント稀ナリ」とはやや誇張された感がありますが、この価格表が発行された時点で、数多くの彌兵衛の教えを受けた金庫業者が存在していたようです。

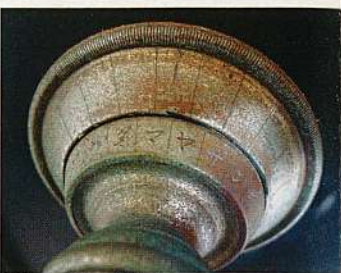


写真6 山田製金庫

(写真1左)。金庫の扉に取り付けられているプレート(写真4)には「改良金庫第三號」と記されており、これを明治十四(一八八二)年に発行された山田金庫店の広告「弗匣廣告」(写真5)で確認したところ、その仕様が記載されています。

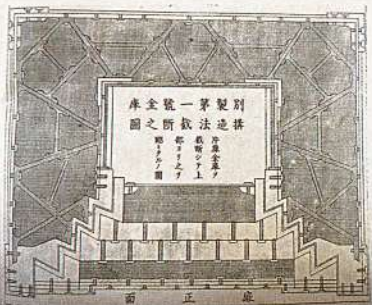


写真7 「國末製金庫定価表」
明治27（1894）年発行

下部に取り付けられている車輪を除いた高さ四尺(約一メートル二十一センチ)、開口三尺(約九十九センチ)、奥行二尺六寸(約七十八センチ)、目方六百貫目(約二千二百五十キログラム)、文字合わせ器械付きのもので三百円とあります。この文字合わせ器械とは、現在のダイヤルですが、数字ではなくカタカナが使用されています。

仕様を見てまず目に留まるのが、三百円という価格です。「続値段の風俗史」によると、明治十九(一八八六)年の小学校教員の初任給が五円とありますので、金庫は当時かなり高価なものであったことが推察されます。次いで興味深い点は、重さが二トン近くあるということです。金庫に必要とされる基本的、かつ最も重要な機能といえば盗難防止と耐火性能です。この重さは盗難対策のみならず耐火性能と関連がありそうです。

明治二十七(一八九四)年に発行された國末製金庫定価表には、同社製造金庫の断面図が掲載されています(写真7)。図を見ると、中央は現金や書類を収める空間であることがわかりますが、中央の空間と外枠の間は細かく区切られており、その用途が一見わかりません。同定価表の「金庫効用製造法之概略」によると、金庫の外枠は鉄鉄や鉄板、螺釘(ネジ)が用いられており、中央の空間と外枠の間には、「毫モ間隙ノ生ズルナク内外間ニハ防火薬及ヒ砂石ヲ仕込ミ」とあります。このように耐火材として砂が用いられる事例は、当時の金庫では多く見られたようです。「明治事物起原」には、金庫の内部に用いる砂



写真8 小林製金庫



写真9 後藤製金庫



写真10



写真11



写真12

は山砂が良いという記載があるほか、明治二十一年の東京日日新聞に掲載された竹内製金庫の広告には、「扉は表裏の両鉄板内に白砂及び「セメント」を充填し」とあります。財団法人都市防犯研究センターの報告によると、昭和初期まで砂や珪藻土などが耐火材として使用されていたようです。明治時代に発明された国産金庫は、当時貴重であった鉄をふだんに用いて、且つ耐火材として砂などを充填し使用されていました。

《金庫のみどころ》

これまで、明治時代に発明された国産金庫の誕生経緯や構造についてご紹介してきましたが、最後に実際に展示されている金庫についてその見どころをご紹介します。

展示されている三点の金庫の扉には把手、ダイヤルのほかに、製造業者の商標プレート(※2)があるのがわかります。山田製金庫には内国勲業博覧会などで、下賜された賞が刻印されたプレートも取り付けられています。

まずダイヤルに注目してみましょう(写真6、8、9)。明治四十年頃製造の合資会社小林金庫商會製造の金庫(写真1)世には「ABC…」順に刻印されたアルファベットのダイヤルが取り付けられています(写真8)。明治三十八年頃に製造された東京の後藤製造の金庫(写真9)と、先に紹介した山田製金庫にはカタカナのダイヤルがあり、「いろはに…」や「あいうえお」といった規則的な文字の配列ではないことがわかります(写真6、9)。

それぞれのカタカナを反時計回りに読んでみると以下のような文章が刻印されています。山田製金庫には「ヤマダハツメキモチアワセキカエトオケイギンザ(山田発明文字合わせ機械東京銀座)」とあり、後藤製金庫には「ゴトウセゾアワセキカエトオケイギンザ(後藤製文字合わせ諸火災保険付)」とあります。ダイヤルの文字がその金庫の紹介文となっていたわけです。

《終わりに》

これまで見てきたように金庫は、利用者のお金や証書を火災や盗難の被害から守るため、砂や土、鉄という、素材や技術を巧みに組み合わせ製造され、同時に、製品が確かなものであることを伝えるための工夫も随所になされました。実際に金庫の中やその構造を見ていただけませんが、金庫に込められた職人の熱意と創意工夫を感じていただけましたら幸いです。

《参考文献》

- ※1 価格表には各地の販売代理店の一覧が掲載されており、販売開始以降、全国に販売網が確立されていたようです。
- ※2 商標プレートが取り付けられた背景は、明治四(一八七一)年の「専売特許規則」制定にはじまり、国内産業振興のための法整備がありました。明治十八年には「特許条例」が制定され、その前年の明治十七年に「商標条例」が制定されたことにより、各業者が商標登録して固有のものとするようになりました。
- ※3 「第二回内国勲業博覧会授賞人名表」、進歩賞(三)の項に「弗匣 東京中北米吉」という記載があります。同博覧会において金庫を出品して受賞している人物が他にいないことから、この中北米吉とは山田金庫店の創業者で前掲した山田金庫店の広告に記載されていた山田米吉であると考えられます。



写真1 芝川邸の手摺



写真2 持ち送り



写真3 ブラケット



写真4 カタバミ

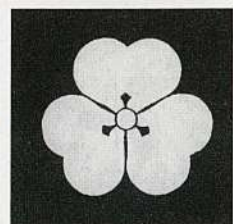


図1



写真5 アオイ

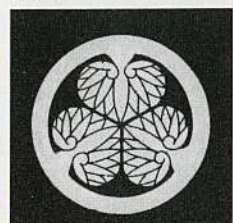


図2

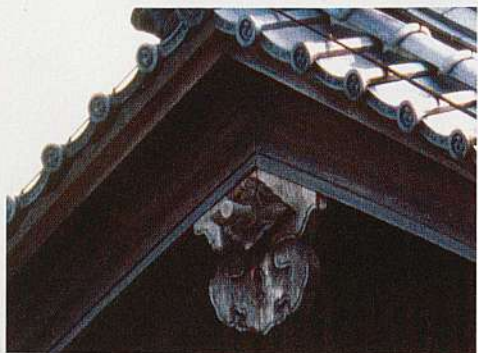


写真6 宮津裁判所法廷の懸魚

明治村三丁目の芝川又右衛門邸は明治四十四(一九一一年)年、武田五一の設計により、兵庫県西宮市に建てられました。外観は洋風ですが内部には和風要素も取り入れられています。

二階には和室が二部屋あり、小さな和室は二方向に出窓があり、その出窓の手摺の下部(写真1)や、出窓を支える持ち送り(写真2)、さらに照明器具の

芝川又右衛門邸の「ハート」

●芝川又右衛門邸(3丁目68番地)



り、後に「アーツ・アンド・クラフツ」として知られるようになった工芸運動が高まりをみせていました。「アーツ・アンド・クラフツ」はヨーロッパ各地のみならず、世界各地で様々な展開をみせ、装飾芸術の革新を推し進め、また各地の手工芸が復興しました。五一は、パリ、ロンドンを経て、スコットランドのグラスゴーを訪れます。グラスゴーは「ア

ブラケット(写真3)に「ハート」があしらわれています。ここではこの「ハート」の意味を探ってみよう。

五一は図案研究のため、一九〇一年から一九〇三年までヨーロッパに留学していました。当時のヨーロッパは、十九世紀末にイギリスで手工芸を再生・復興する動きが広がり、

「ハート」は多く見られます。例えば家紋です。片喰紋は三つのハートから構成されています(図1)。植物のカタバミは世界中どこにも見られる雑草(写真4)

「アーツ・アンド・クラフツ」の工芸運動が特に高まりを見せた場所で、リーダーのC・R・マッキントッシュを中心に独創的な作品を展開した「グラスゴー派」と称されるほどでした。そこで五一はマッキントッシュが設計した美術学校や、丁度開催されていた「グラスゴー博覧会」を見学し、新しい工芸運動の息吹を存分に吸収し、数多くのスケッチ等を残しました。「アーツ・アンド・クラフツ」は中世との繋がりを取り戻す目的で、デザインインスピレーションは自然に求めることが多く、シンプルなデザインの家具や壁紙に「ハート」や花鳥などを添えたデザインが発表されました。

五一の二度にわたる欧米視察を終えた後の比較的早い時期に建てられた芝川邸の「ハート」は、「アーツ・アンド・クラフツ」の工芸運動の影響とも考えられます。

しかし、日本の伝統的な意匠の中にも「ハート」は多く見られます。例えば家紋です。片喰紋は三つのハートから構成されています(図1)。植物のカタバミは世界中どこにも見られる雑草(写真4)

で、人々の身近にあった植物であることから家紋に取り入れられたと考えられています。また、徳川家の家紋として有名な葵紋(図2)も「ハート」に似ています。この紋は京都の葵祭で有名な賀茂神社の霊草がフタバアオイ(カモアオイ)(写真5)であることから、その氏子たち一族が家紋として使い始めたと言われています。これらは身近な植物を意匠として取り入れ、アーツ・アンド・クラフツの目指したところと一致するといえます。他にも神社や城、寺の建物の妻側にある懸魚にも「ハート」が見られます。明治村の五丁目にある宮津裁判所法廷の妻(写真6)にも猪目といって猪の目のようなハートの装飾が取り付けられている。

芝川邸の「ハート」も何気ない装飾に見えますが、アーツ・アンド・クラフツと日本の伝統デザインが融合しているといえるのではないでしょうか。

【引用・参考文献】
図1「日本家紋総覧」秋田書店
写真4「カタバミ植物百科」平凡社
写真5「形くらしの雑草図鑑」全国農村教育協会

春の特別ガイド&建物講座

1 非公開部分を特別公開! 「帝国ホテル中央玄関をめぐる」

特別に普段非公開の3階部分を特別公開、ご案内します。

- 開催日: 5月16日(日)、5月23日(日)、6月19日(土)
- 時間: ①10:00~11:30 ②13:30~15:00 (約1時間30分)
- 参加費: 1,000円(呈茶代含) ※明治村入村料が別途必要です。
- 定員: 各回15名 ※定員になり次第お申込を終了させていただきます。
- 申込方法: 各開催日の14日前から3日前の17時までに電話にてお申込ください。

2 明治村建物講座 「ここが見どころ! 明治村の建物」

明治村建築担当主任・石川新太郎が、建物の見所をスライドを交えながら分かりやすく説明します。村内ご見学前にお気軽にご参加ください。

<第四高等学校物理化学教室>

- 開催日: 4月10日(土)、5月15日(土)、29日(土)
- 時間: 11:00~12:00 (約1時間予定)
- 参加費: 無料 ※明治村入村料が別途必要です。
- 定員: 各日50名 ※満席の場合は室内に入れない場合がありますのでご了承下さい。

3 明治村植物探訪 「植物の宝庫・明治村」

建物だけではなく明治村の魅力。珍しい植物を探訪しましょう!

- 開催日: 3月22日(祝)、28日(日)、4月11日(日)、5月9日(日)
- 時間: 13:00~14:30 (約1時間30分予定)
- 参加費: 無料 ※明治村入村料が別途必要です。
- 定員: 各日20名 ※定員になり次第お申込を終了させていただきます。
- 申込方法: 各開催日の3日前の17時までに電話またはHPよりお申込ください。

明治村トリエンナーレ2010 4月24日(土)~6月27日(日)

第3回 芸能・芸術祭

SPRING STAGE

参加団体、スケジュールは明治村公式ホームページにてお知らせします。

「明治村トリエンナーレ2010」は、「あいちトリエンナーレ2010」のパートナーシップ事業です。

明治村トリエンナーレ2010 特別企画

「西田光男・PAGE ONE 鍛鉄展」

真っ赤に熱した鉄板を叩いて形作る「鍛鉄」。ヨーロッパに端を発した鍛鉄を、伝統の技術で継承し製作している日本の第一人者西田光男氏と氏主宰の工房 PAGE ONEによる作品展です。

- 開催日: 6月5日(土)~13日(日)
- 場所: 帝国ホテル正面玄関

春の催し物

明治村桜まつり2010 「春薫る琴とフルートの調べ」

- 開催日: 4月3日(土)、4日(日) (学習院長官舎)
- 出演: デュオSAKURA

のりもの探険隊

間近で見るSL転車体験

事前予約・定員制

転車作業を間近で見た後は、実際に転車台を廻してみよう!

- 開催日: 5月22日(土)、23日(日)
- 集合: 11:00~12:00 (SL東京駅)
- 対象: 小中学生 ※未就学児の参加はできません。
- 申込方法: 各開催日の3日前までにHPにてお申し込みください。

明治村茶会

開催日: 4月16日(金)、17日(土) 事前予約制

坐漁荘・濃茶席 (徳川美術館)

明治の建築物を利用して開かれるお茶会です。どなたでもお気軽にお申込いただけます。

日本庭園・野点席 (柴山利彌)

■ 締切4月6日。電話でお申込下さい。電話受付9:30~17:00

明治探険隊V

創世紀外伝

おなじみ明治探険隊もついに第5弾! 【探険の書】に記されている謎や問題を解きながら、明治村内に隠された宝箱を探し出す宝探しゲームです。

(探険ゲーム監修:【宝探し専門サイト】タカラッシュ)

期間 平成22年 3月6日(土) ~ 7月25日(日)

おなじみ明治探険隊もついに第5弾! 【探険の書】に記されている謎や問題を解きながら、明治村内に隠された宝箱を探し出す宝探しゲームです。

(探険ゲーム監修:【宝探し専門サイト】タカラッシュ)

期間: 3月6日(土)~7月25日(日) 9:30~16:30
受付: ミュージアムショップ(正門)、SL東京駅売店(北口)

コース:

- I. ライトコース(小学校高学年向)/200円
- II. ルーキーコース(中高生、大人・初級)/300円
- III. マスター (RED) コース(大人・中・上級)/500円
- IV. マスター (BLACK) コース(大人・中・上級)/500円
- V. アドバンスコース(難関・上級) 料金: 1,000円 5月15日(土)から発売!
- ※「マスターコース」をクリアした方だけが挑戦することができます。合格印の押された「マスターコース」の探険の書を必ずお持ちください。
- VI. 伝説の探険家コース(超難関・最上級) 料金: 1,000円 6月12日(土)から発売!
- ※「アドバンスコース」をクリアした方だけが挑戦することができます。合格印の押された「アドバンスコース」の探険の書を必ずお持ちください。

GW延長開村 5月1日(土)~4日(祝)は18:30まで延長開村いたします。

お問い合わせ・申込先 <http://www.meijimura.com> または 0568-67-0314

※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。